

令和3年度佐賀大学研究者国際交流支援事業報告書

令和4年11月17日

国際交流推進センター長 殿

下記のとおり報告します。

1. 国際研究集会名	第30回アジア経済シンポジウム 「アジアでレジリエントな社会を構築する」		
2. 事業責任者 (申請者)	サーリヤ・ディ シルバ	3. 所属・職名	経済学部教授
4. 開催期間	令和3年11月5日～令和3年11月5日		
5. 参加者数 ※参加者名簿(様式 任意)を添付	参加者数 <u>162</u> 名 うち、外国人数 <u>86</u> 名、学生数 <u>93</u> 名・学部学生を含む(修士課程以上)		
6. 支援金額	金額 <u>200,000</u> 円		
7. 招待講師	所属 ベトナム国家大学・経済大学(ベトナム) 職名 准教授 氏名 Nguyen Anh Thu 所属 UCSI大学(マレーシア) 職名 教授 氏名 Pek Chuen Kee 所属 浙江理工大学(中国) 職名 教授 氏名 ZHANG Zhengrong 所属 佐賀大学 職名 名誉教授 氏名 ラタナーヤカ・ピヤダーサ		
8. 謝金支出額	金額 <u>30,000</u> 円		
9. 国際研究集会の内容	別紙参照		
10. 特記すべき成果・波及効果	<p>30年に渡り毎年開催してきた歴史あるシンポジウムであるが、昨年度はコロナの影響で開催できず、今年度はオンラインでの開催を試みた。時差で開催時間が難しかったが、次のような成果・波及効果があった。</p> <p>①初めてのオンライン開催で準備が難しかったが、これまでで最大の7ヶ国8大学から18の報告があり、学術交流協定のため協力による発展の成果である。</p> <p>②全世界を巻き込んだ現在の金融危機・自然災害・COVID-19等の重要な社会経済問題をテーマに取り上げ、各国の経験と英知を結集し活発な議論の場になった。</p> <p>③アジア地域で持続可能な開発目標(SDGs)を前進させるための政策提言につながる効果が期待できた。</p> <p>④佐賀大学とアジアの参加大学との学術的友好的関係が深まり、共同研究を含む研究者交流、また学生交流(特にアジアの社会的課題に対する視野)を広げることができた。</p> <p>⑤来年度は、対面は佐賀大学、オンラインはペラデニア大学(スリランカ)が主催校となっているが、今回の経験を活かし本シンポジウムの新たな発展が期待できる。</p>		

※欄内に収まらない場合、適宜、行を追加し、ページを増やしていただいても構いません。